

ブックレビュー



『だからタイはおもしろい ～暮らしてわかったタイ人の「素の顔」』

高田胤臣 著
光文社 刊

定価 880円 (本体 800円+税)

1977年生まれ of 著者は、タイ王国に暮らして20余年。連れ合いもタイ人だ。好きなタイについて「できるだけフラットな目線で」「いいところ・悪いところ」を縦横に書き綴り、「代わりに」著者は言う。「タイ人はとにかく自分に素直な人たちだ。欲望にストレートなので、一見子どもっぽく見えるけれど、タイに暮らし、一旦自分もそんな生き方になると、いろいろなものを肩から降ろすことができ、身軽な人間になった気がしてくる。無理な背伸びをせず、こんな程度でいいんだと、タイ人同様に自己肯定感も高まる」と。

この短いフレーズから、タイ人のお国柄がいくつか窺える。「自分に素直」「欲望にストレート」「一見子どもっぽい」「身軽な人間」「無理な背伸びをせず」「自己肯定感が高い」など。高温多湿の熱帯性気候のもと

では、年間を通じて半袖半ズボンで身軽に過ごすことができる。それだけでも「いろいろなものを肩から降ろすことができ」るはずだ。しかし、いざ暮らしてみると、そんなうわべに隠されたタイ人の「素の顔」も見えてくる。その表裏を含め、「全部をまとめてタイを好きと思える日本人がもっと増えてくれたら」と著者は願う。

観光であれ仕事であれ、タイ王国を訪れるチャンスに恵まれたら、まずは本書を手にした。「微笑みの国」で生まれる様々な出逢いの機微をより深く理解する手がかりが本書には溢れている。「サバァイ (気楽)」に生きるタイ人のしたたかな意識や行動のゆえんが胸に落ちる。そして、世知辛くもほろ苦い滞在体験がいつそう豊かになり、その時あなたは著者と同様に、タイ人をますます好きになるだろう。一筋縄ではいかないタイ王国の政治・経済・社会の実相に迫る、実にアクチュアルな快作だ。

さんかいの けん
(山海野 玄)